

「盛岡地区かわまちづくり」【一級河川】北上川水系北上川・中津川（岩手県盛岡市）

中心市街地の活性化が急務となっている中で、市内中心部を流れ、歴史的に市民に親しまれてきた、良好な観光資源でもある北上川、中津川の河川空間を活用することで、街なかの賑わい創出や観光振興に繋げる多くの取組みを市民、地域団体(商店街振興組合や町会で構成される舟運の会)、民間(Park-PFI民間事業者、ミズベリング中津川等)、国、市が連携し実施している。河川空間(階段・船着き場等)の整備にあたっては、地元や民間事業者等の「まちづくりの視点」を取り入れ利用者の意見を反映したことにより、コロナ禍においても「水際の居場所」としての開放的な空間により多くの市民に親しまれている。

推進主体

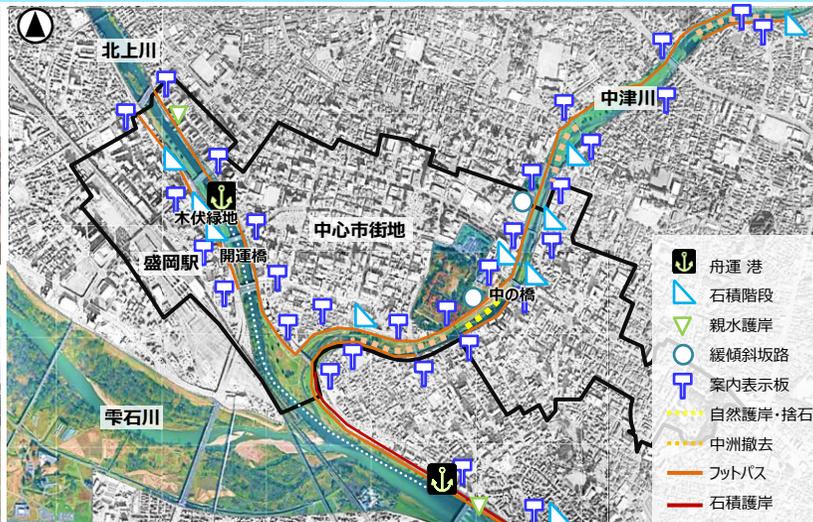
盛岡地区かわまちづくり懇談会

- 構成員：学識経験者、NPO法人、商工会議所、青年会議所、盛岡市、岩手河川国道事務所 等

○ 代表者：盛岡市長 谷藤裕明



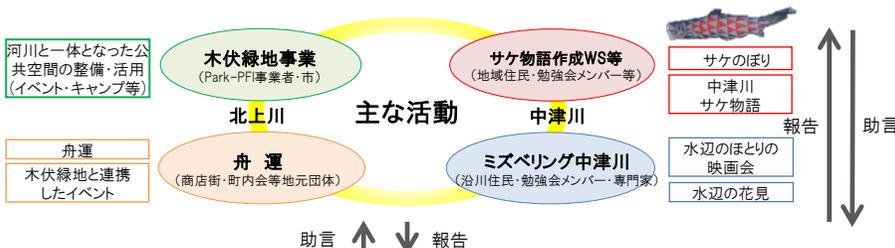
施設の整備状況 ～完成供用中～



管理運営体制図

エリア全体での効果的な取組みのため、懇談会など、多様な関係主体による一体連携の枠組みを構築している。維持管理は、各施設管理者が行い、運営は、活動団体が主体となって行い、行政側はその支援を行うこととし、協働で進めている。

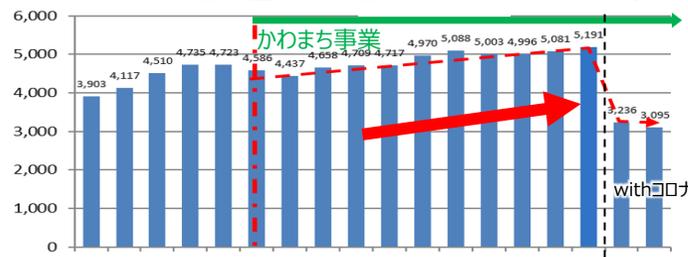
かわまちづくり懇談会 (市民活動関係者・学識経験者・行政機関) H21発足 1回/年



かわまちづくり勉強会 (市民活動関係者・専門家・市民・行政機関) H23発足 1～2回/年

取組による効果

市内の年間入込客数の推移は、かわまちづくり事業の開始以降、着実に増加している。「盛岡市観光推進計画(5ヶ年計画)」において、平成31年度までの目標数500万人をH27・H28・H30と達成し、令和元年は更に519万人に伸びた。令和2年度と令和3年度は新型コロナ感染症の影響により324万人、310万人に減少したが、現在、まちなかイベントや沿川P-FI施設等とも連携し、withコロナにおける屋外空間の居場所づくりとして、様々な利活用を推進している。



盛岡市の年間入込客数の推移

「盛岡地区かわまちづくり」【一級河川】北上川水系北上川・中津川（岩手県盛岡市）

取組内容:利用者の意見を反映した「かわ」の活用 ～コロナ禍における新たな屋外の居場所～

市内中心部を流れる北上川、中津川は日頃より散策等に利用され、従来より市民によるサケの稚魚放流会、身近な水辺での川遊び、伝統行事を含むたくさんのイベント等が開催され、多くの市民、観光客に利用されている。また、新たな市民団体主体の取り組みとして、河川敷を利用した「街なかキャンプ」、「水のほとりの上映会」、「川に親しむ舟運とまちあるき」イベント等が開催されている。北上川に隣接した木伏緑地には、Park-PFI制度でオープンした商業施設があり、利用者や民間事業者の意見を反映して整備された散策路・階段・船着き場などの相乗効果により、コロナ禍においても市民の日常的な居場所として河川空間が市民に親しまれてきている。また、これら各種取り組みにより、盛岡市の年間入込客数の増加に一定の効果を発揮している。



木伏緑地&河川道路の賑わいと河川敷の街なかキャンプ
(北上川・開運橋上流)



舟運と街なかキャンプ
(北上川・開運橋上流)



階段・船着き場の日常的利用
(北上川・木伏緑地前河川敷)



盛岡かわとみどりのほしぞら映画祭
(北上川・木伏緑地及び中津川河川敷)



サケ稚魚放流会



親子護岸の水辺での川遊び
(中津川・中の橋下流)